

第一回日本SF大賞について

授賞作品 堀 晃著「太陽風交点」(早川書房刊)

正賞 賞状及び記念品 副賞 百万円

選考委員 星新一、小松左京、筒井康隆、豊田有恒、伊藤典夫、鏡明。

△堀 晃氏略歴▽

昭和十九年 兵庫県電野市生。

昭和四十四年 大阪大学基礎工学部機械工学科卒業、大阪の某紡績会社に勤務。

\* \* \*

十六歳で高校の学校新聞にSF小説を書き始めて以来二十年という長いキャリアの持主。高校在学中に筒井康隆氏の主宰するSF同人誌「NUL」に入会、本格的な小説執筆を開始した。すでに同人には小松左京氏、眉村卓氏らがいた。また日本SF界の草分け的存在である「宇宙塵」(主宰・柴野拓美氏)とも連絡をとりあい、ファン活動をはじめた。同人誌「タイム・パトロール」(TP)、「パラノイア」などは氏が仲間とともに発行したこの時代の代表的ファンジンである。昭和四十五年、「SFマガジン」(早川書房刊)六月号に「イカサの夏」を発表。初の商業誌登場で、一躍脚光をあびる。この間、一貫してハードSFの数少ない手として活躍してきた。著書に受賞作のほかシートンシート集「エネルギー救出作戦」(作品社)、「都田地下オデッセイ」(ハヤカワ文庫SF)近刊予定)がある。

参考 「日本SF大賞」を設定するにあたって

日本SF作家クラブは、今年全員の総意にもとづき、「日本SF大賞」を設定する事にいたしました。

これまで、日本においては、SF専門誌を通じておこなわれてきた新人賞は、いくつもありました。また、SFファン連合の自主的運営による「星賞」もあり、いずれも著実に実績をあげて来ております。

しかしながら、近年におけるSF関係作品数の著しい増大と、読者、ファン層の拡大に鑑み、各年度における最もすぐれた作品を、SFを専門とする立場から顕彰する必要もまた、増大しつつあると考えます。

ここにおきまして、日本における、職業的SF作家、翻訳家などの同志的集団である日本SF作家クラブは、SFを専業とするものの責任において、各年度における最もすぐれた業績をえらび出し、これを「日本SF大賞」の形で表彰する事にいたしました。

この賞は、当面SF小説、SF関係評論を中心とし、授賞作は年一本といたしますが、もし、他のジャンル、たとえば映画、漫画、SFアート、あるいは音楽などの分野にその年度においてきわだつてすぐれた業績があれば、考慮の対象とする事を妨げません。また、状況の推移によって、将来、授賞部門そのものの拡大も、考慮してあります。

授賞作品は、原則として毎年十月から翌年九月末までに発表されたものを対象とし、候補作品は、SFに関心の深い編集者、ジャーナリスト、ファン、読者の意見をも参考にしつつ、日本SF作家クラブのメンバー全員によって推薦され、その中から、主として作家クラブメンバーの互選によって選出された選考委員会によって決定されます。

授賞の発表は、株式会社徳間書店発行のSF専門誌「SFアドベンチャー」誌上において、選考経過とともにこなわれます。

本大賞受賞者には、日本SF作家クラブ発行の正賞と、徳間書店より献賞百万円が、授与されます。

本大賞の設定により、日本におけるSFの創作活動が、将来にかけてより大きくはばたく事を願心よりねがうものであります。

日本SF作家クラブ

会長 小松左京  
事務局長 筒井康隆

(雑誌については「SFアドベンチャー」五十六年三月号を(参照下さい))